

勤務時間管理の徹底を起点とする 教育委員会の総合的な取組

～子どもと向き合う時間の確保をめざして～

令和2年1月31日
北九州市教育委員会



ていたん&ブラックていたん

環境未来都市
北九州市

北九州市の概要

市立学校数等（令和元年5月1日現在）

校種	学校数	児童生徒数	学級数	教職員 現員数
幼稚園	4園	102人	12学級	29人
小学校	※ 130校	47,082人	1,881学級	3,117人
中学校	62校	22,205人	780学級	1,669人
特別支援学校	8校	1,240人	316学級	761人
高等学校	1校	688人	18学級	55人

※分校 1 校含む。

これまでの働き方改革の主な取組み

【勤務時間管理の実施】

- ・平成25年1月から、校務支援システムの出退勤管理機能を利用して勤務時間を管理
- ・データを教育委員会において把握・分析し、学校への情報提供や健康被害防止対策に活用



〔ICカードリーダー〕



出退勤登録

現在時刻 平成29年09月29日 17:38

出勤 退勤

前日退勤

氏名

登録時刻

〔出退勤登録画面〕



出退勤登録の徹底

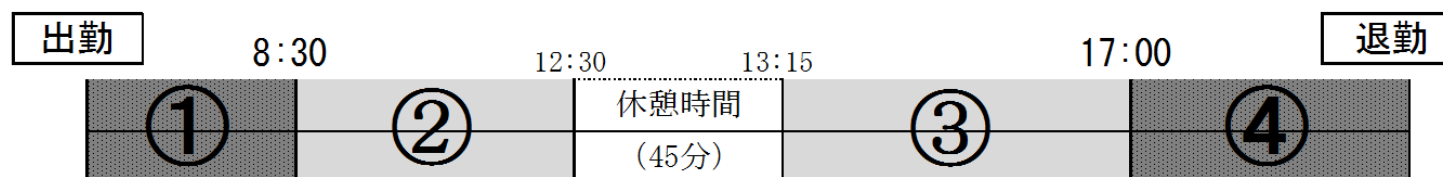
①文書による通知(毎年度)

②学校担当課長の学校訪問(年2回)

③校園長会議(年複数回)

勤務時間外における在校時間とは

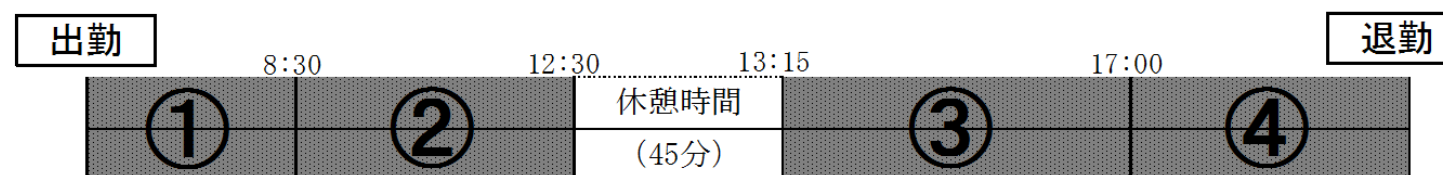
【平日】



①+④=勤務時間外における在校時間

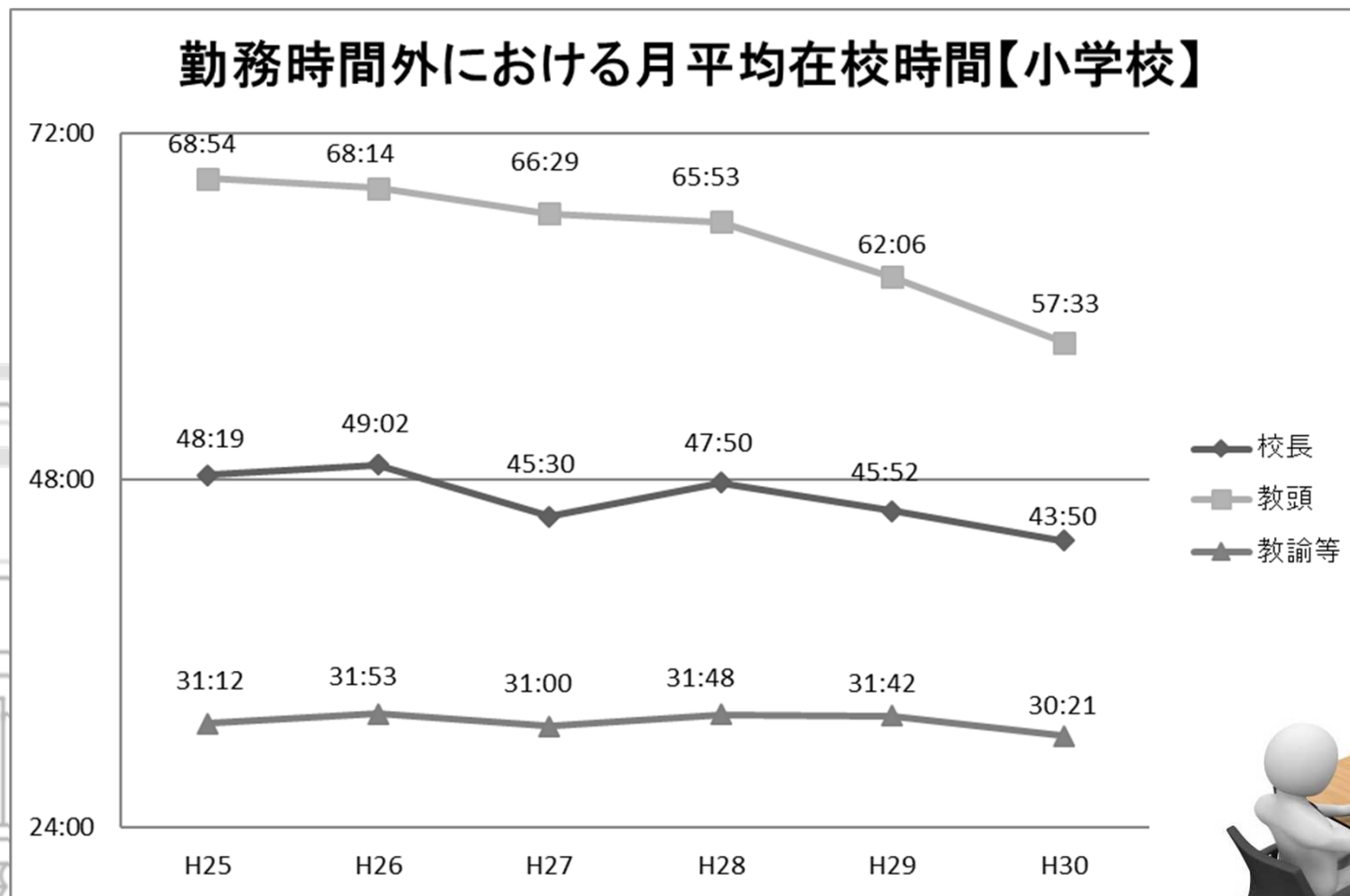
②+③=正規の勤務時間 (7時間45分)

【土日・祝日】

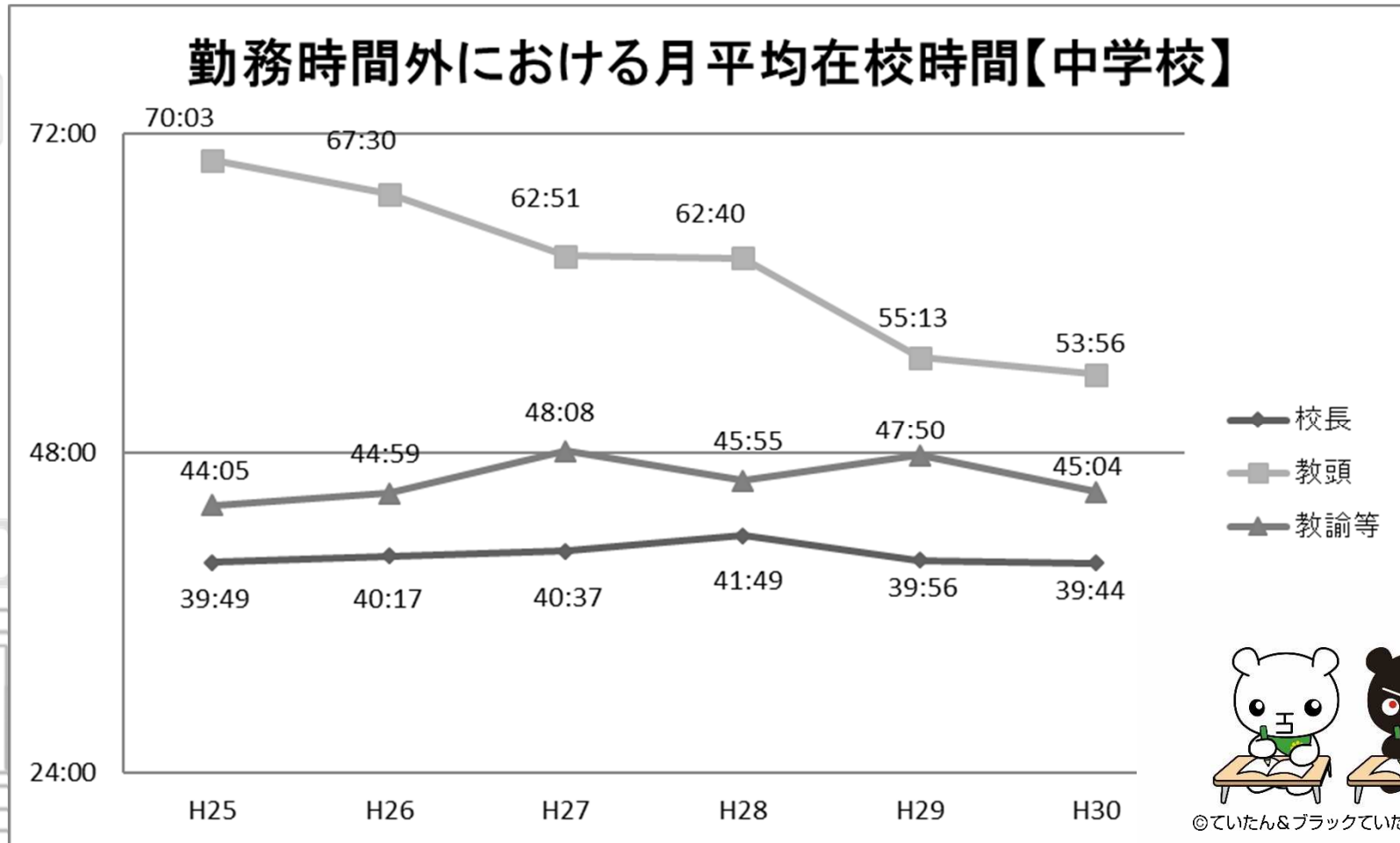


①+②+③+④=勤務時間外における在校時間

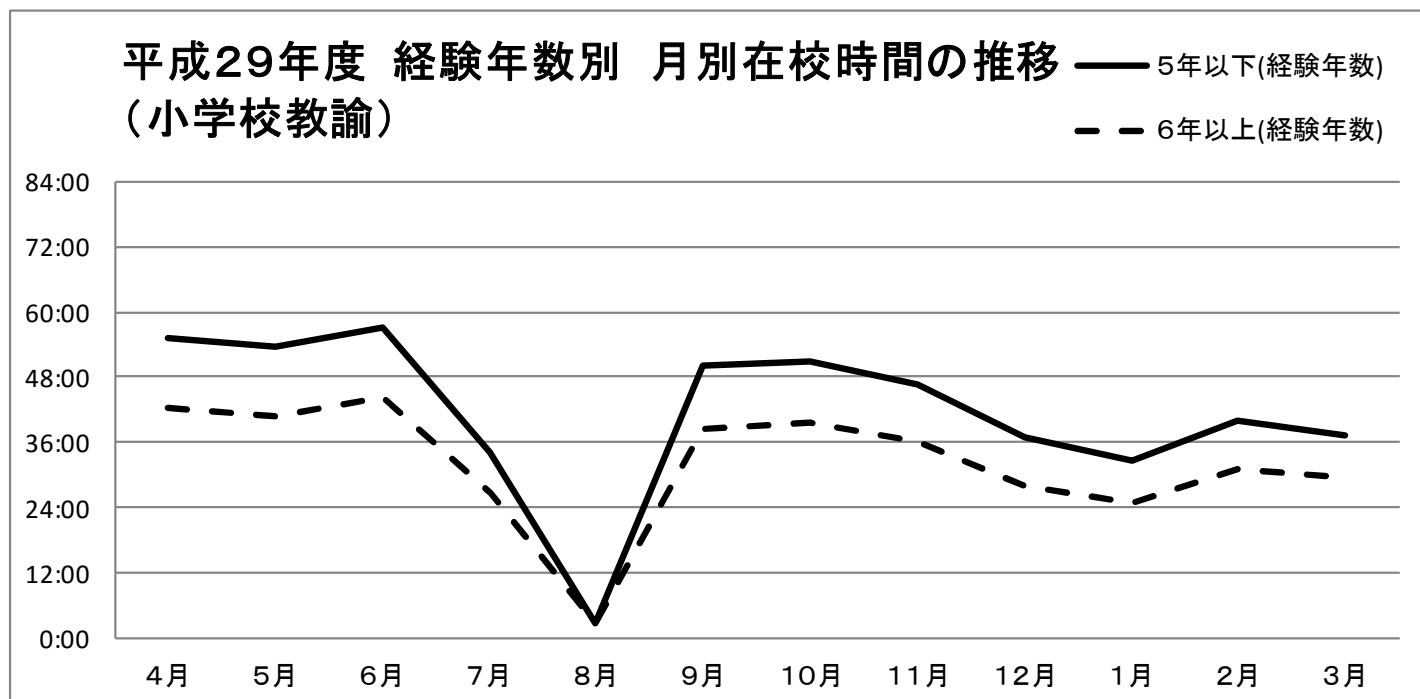
在校時間の状況①



在校時間の状況②



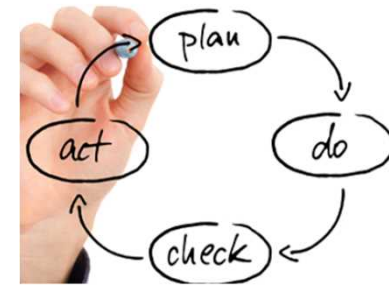
在校時間の状況③



	5年以下	6年以上	合計
月平均在校時間 (小学校教諭)	41:25	32:00	34:57



在校時間の活用



①働き方改革の取組の成果の指標の一つとして

②働き方改革の取組の基礎資料として

【例】

- ・4月の在校時間が長い →内示日の前倒し
- ・若年教員(特に新採)の在校時間が長い
→WEB研修の導入
- ・教頭の在校時間が長い →事務の平準化

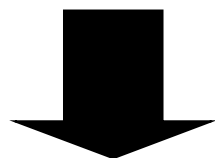
意識調査の活用

平成28年度の意識調査では、事務処理を
負担に感じる教員が最も多かった。

【平成30年度】

「スクール・サポート・スタッフ」の配置

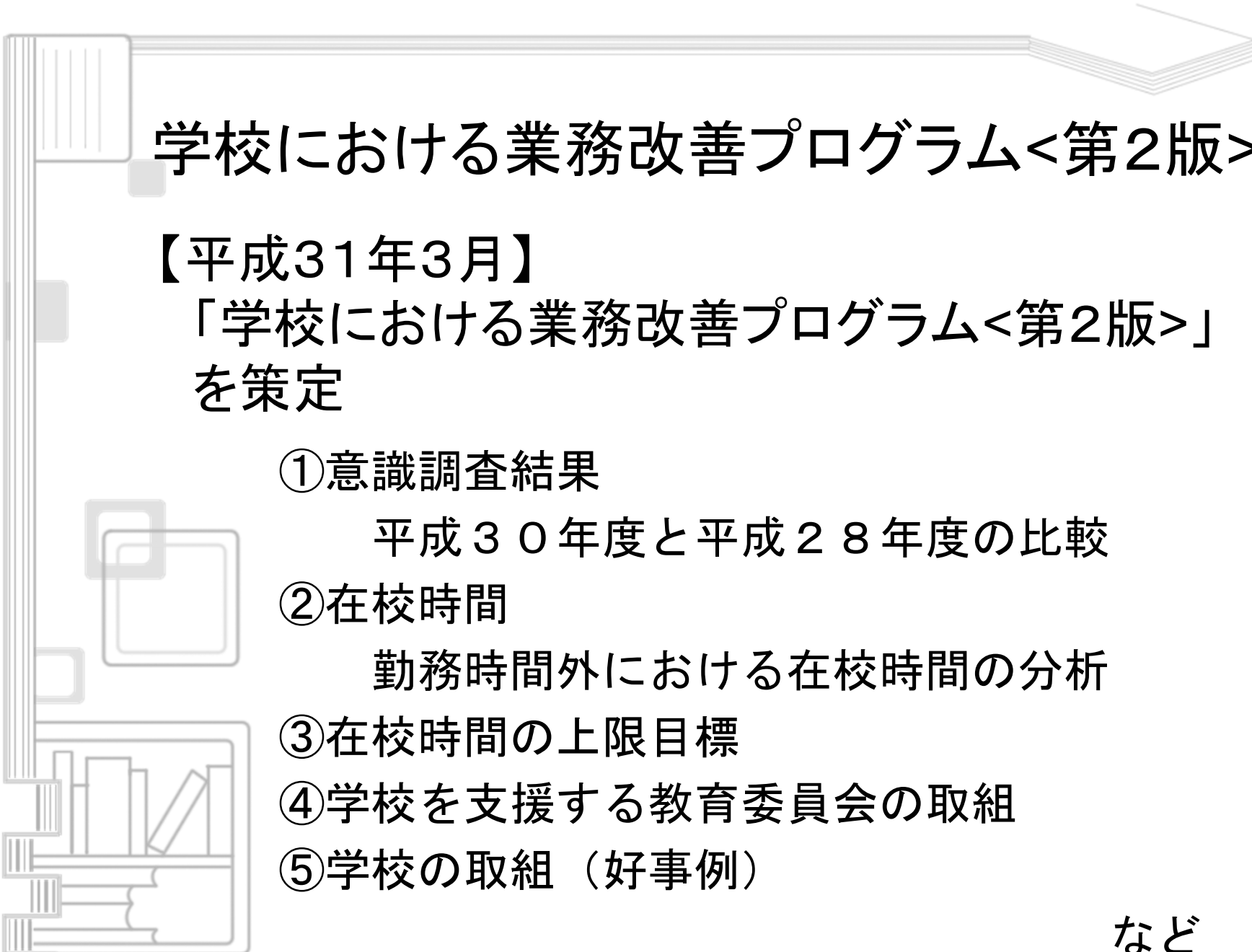
→小学校40校（児童数の多い学校から）



【配置校の教諭等の在校時間】

33時間44分（H29年度）

→30時間47分（H30年度）



学校における業務改善プログラム<第2版>①

【平成31年3月】

「学校における業務改善プログラム<第2版>」
を策定

①意識調査結果

平成30年度と平成28年度の比較

②在校時間

勤務時間外における在校時間の分析

③在校時間の上限目標

④学校を支援する教育委員会の取組

⑤学校の取組（好事例）

など

学校における業務改善プログラム<第2版>②

1 職員提案報告会の実施
(令和元年12月25日)

2 スクール・サポート・スタッフや
部活動指導員の増員

3 専科指導の充実 など



©ていたん,北九州市

学校における業務改善プログラム<第2版>③

【学校の好事例】

定時退校のための心得7か条

- 1 いつも整理整頓を
→ 物を探す時間が一番もったいない
- 2 教材・教具の共用・使い回しを
→ 「常に自分好みのオリジナル」は無駄も多い
- 3 放課後の雑談は、ほどほどに
→ 長い雑談は、結局お互いの足を引っ張る
- 4 優先順位を適切に
→ 明日できることは明日に回そう
- 5 それぞれの仕事には制限時間を
→ 一つの仕事に何分かけるか決めてとりかかろう
- 6 70点~80点主義で
→ 100点を求められる仕事はそんなに多くない
- 7 自分へのご褒美を
→ 早く帰った後の楽しみをつくっておこう



おわりに①

【勤務時間の管理を徹底する上で】

出退勤管理の徹底

→ 在校時間の見える化



正確な教員の働き方が把握ができる

→ 働き方改革の第一歩

おわりに②

①子どもと向き合う時間の確保
→いきいきと教員が子どもと
向き合えるように

②様々な教育課題の解決

→スクラップ&ビルドを念頭に



今「学校における働き方改革」
を取組まなければならない！

ご清聴ありがとうございました。



©ていたん,北九州市



©ブラックていたん,北九州市